

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

【学校法人末益学園 こじか幼稚園】

1. 本園の教育目標 <こころとからだの強い子どもを育てる>

・明るく健康でたくましい子ども・友だちと仲よく遊べる子ども・善悪の判断が理解できる子ども・情操豊かに思いやりのある子ども・目標に向かって頑張る子ども

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						評価結果に関する 説明・意見書 ※抜粋	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
① 子 ど も の 思 い を 受 け 止 め る 保 育 の 見 直 し	一人一人に寄り添う保育を行う	4	ゆとりのある保育を行い、子どもと一緒に遊びに関わる。	2.5	4	子どもが伸び伸びと遊びを楽しむ姿が見られるようになった。	2.9	2.7 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によってはやるべきことが多く、ゆとりのある保育ができていないと感じる。行事の前は特に慌ただしく、やるべきことに終われ、余裕がない。 ・日々の子どもの様子の記録や職員間での情報共有によって子ども一人ひとりの内面を理解できている。 ・子どもの内面は理解できていると思うが、子どもとの関わりの中で担任としてもう少しできたことがあったのではないかと思う。 ・配慮を要する子ども、自発的に行動する子ども、受け身の姿勢の子どもなどそれぞれの個性は理解できているが、個性が多様化している中で偏りなく対応できているが葛藤が生じる。
		3	保育の振り返りや記録から一人ひとりの子どもの内面を理解する。		3	子どもが安心して園生活を楽しむ姿が見られるようになった。			
		2	日常的に子どもとコミュニケーションを取り、一人ひとりの性格や個性を理解する。		2	子どもが安心感を持ち、自分を表現できるようになった。			
		1	子ども一人ひとりにあった援助・コミュニケーションを取り信頼関係を築く。		1	子どもが保育者に対して安心感を持つようになった。			
	子どもの主体性を育む保育を行う	4	保育者が全部決めるのではなく、子ども達のやりたい事や意見を取り入れ一緒に作り上げる。	2.6	4	保育者だけでなく子どもも達成感を味わえるようになった。	2.6	2.6 (A)	
		3	子どもの気持ちや思いを聞き、保育に取り入れる。		3	子どもの気持ちに寄り添った保育が出来るようになった。			
		2	子どもの様子を見ながら、したい遊びを選べるような環境を作る。		2	子どもの興味の幅が広がり、積極的に遊びに参加するようになった。			
		1	保育や遊びの中で子どもが自分で考え行動できるような声掛けや援助を行う。		1	自分のしたい事や考えを言えるようになった。			
② 働 き 方 改 革	園業務の効率化と就業時間の適性	4	職員で意見を出し合い、壁面装飾などを簡略化し業務の軽減を図る。	2.5	4	職員の負担が減り、保育を見直す余裕ができた。	2.8	2.7 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は終礼後に学年毎によく話し合い、保育の準備を行い足並みを揃えている。 ・雇用形態により時間の制限はあるが、その中で手分けしてやるべきことを勤務時間内にできていると思う。 ・取組指標にある壁面装飾は、再利用できるものを活用し業務の軽減に繋がった。 ・業務の見直しにより業務は少なくなったが、時間内に終わるのは難しい。 ・就業時間内に業務を終えようと意識することで、少しずつ帰宅時間が早くなっていると思う。 ・本当に必要なかを考え、簡略化できるものは省略していったことで職員の負担は減ったと思う。それにより、子どもや保護者の満足度が減っていないようにしていくことが大切だと思った。
		3	見通しを持って業務に取り組み、就業時間内に終わられるようにする。		3	就業時間を意識し見通しを立てることで業務の効率が上がり、就業時間内に終わる日が増えた。			
		2	各自が園務の内容を理解し、共通理解を図る。		2	園の業務内容を知り、園務の全体像を把握することができた。			
		1	保育計画を立て、進捗状況を確認しながら無理なく進めて行く。		1	優先順位を決めて業務を進めることができ、心に余裕をもって保育を行うことができた。			
	職員間のコミュニケーションを図る	1	朝礼・終礼時に報告や連絡を行い、情報を共有する。	2.8	1	園児に対しての理解が深まり、責任感が強くなった。	2.7	2.8 (A)	
		1	経年数に関わらず、上司や同僚に積極的に相談する。		1	相談しやすく働きやすい環境になった。			
		1	日常的な会話をすることで、互いを理解する。		1	互いの気持ちや立場を理解できるようになった。			
		1	他者の挨拶を待つのではなく、気持ちのいい挨拶をする。		1	自分から挨拶をすることを心掛けるようになった。			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						評価結果に関する 説明・意見書 ※抜粋	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
③ 安全 を 図 る。 対 す る 意 識 向 上	安全点検や教職 員の安全対応力 を高める	4	安全チェックの日を設定し、月に1回遊具・用具・施設の安全点検を行い劣化等による事故を防止する。	2.5	4	安全点検が身につき、幼児の怪我が減った。	2.2	2.4 (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応の研修を受けて、何かが起きた時の具体的なイメージができ、自分取るべき適切な行動や素早い判断に少し自信がついた。 ・外遊びの時間に子どもと遊びながら危険なところがないか意識をして見ている。 ・ネジなどが落ちていた時や緩んでいるものがあつた時など、子どもが見つめて知らせてくれたことがある。 ・雨などで外遊びができない時に、室内で子ども同士がぶつかったりすることがあるため、なかよしホールがうまく利用できれば良いと思う。
		3	遊具や施設等の危険を見つけた場合は、直ぐに共有し防止策を取る。		3	園児が活動や遊びの決まりや約束を積極的に守るようになった。			
		2	子どもと一緒に遊び、子どもの動きをよく見て危険な所はないか安全に対する意識を高め、視野を広げる。		2	職員も意識を高めたことにより子どもが危険な状況を見つけた時に、保育者に伝えるようになった。			
		1	不審者対応の研修を行い、緊急時に備え園児と職員が適切な行動ができるよう定期的な避難訓練を行う。		1	避難訓練の大切さが分かり真剣に取り組むようになった。			
	子どもの安全対 応力を高める	1	バスの中では幼児が安全に対する意識を高めるよう、ルールやマナーを繰り返し丁寧に指導する。	2.4	1	バスの中では椅子から立つ子どもや大きな声で喋る子どもが少なくなり、小さな声で話すようになった。	1.8	2.1 (C)	
		1	幼児の安全意識を高め、決められた時間・場所でのルールを確認し正しい過ごし方を身につける。		1	自由時間の過ごし方の決まりや約束を積極的に守るようになり、幼児の怪我が少なくなった。			
		1	遊具の正しい遊び方、ルールを明確にし、進級時や怪我をした都度繰り返し共通理解を図る。		1	子ども達に遊具の正しい遊び方、ルールが身に付き大きな事故や怪我が減った。			
		1	園の内外問わず、事故や怪我に結び付く可能性がある情報は全職員で共有する。		1	情報を共有する事で似たような事故、怪我が減った。			

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

◇総合的な評価結果

評 価	理 由
B	<p>半分以上の職員が子ども一人ひとりの内面を理解し、子どもに寄り添う保育ができたと評価しており、その結果子どもたちが安心して園生活を楽しむことができたと実感している。また、日頃から些細なことでも子どもの思いを汲み取ることを意識し、可能な範囲で臨機応変に対応していくなど、子どもの主体性を育む保育をに対する意識が高くなったと感じる。業務の効率化と就業時間の適性に関しては、取り組みと成果のどちらも個人差が大きく今後も改善の余地がある。安全に対する意識向上や対応力については、不審者対応の園内研修を初めて実施し、緊急時に職員が取るべき行動をより具体的にイメージすることができた。安全面に関しては、達成できている部分もあるが課題も多く、来年度も重点目標の一つにし、意識と対応力の向上に努めていきたい。</p>

◇今後取り組む課題

課 題	取り組み方法
保育者の質の向上	・ 幼児理解や保護者対応のための学びを深めるため、積極的に研修に参加し園内研修を行う。
職員間のコミュニケーションを図る	・ 勤務時間の関係上、日頃会議に参加しにくい副担任、子育て支援担当者が各担当ごとに園長を交え定期的な話し合いの場を持つ。
職員・幼児の安全に対する意識の更なる向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期避難訓練の内容の見直しをする。 ・ いのちの安全教育を取り入れる。 ・ 職員の対応や意識が同一になるよう、マニュアルを改善しより身近なものにする。

◇学校関係者評価委員会の評価

- ・時間に限りがある中で、子ども達に寄り添う工夫をしていて、特に行事の度に子ども達の心の強さや自信に繋がっており成長をより感じます。
- ・職員の働き方改革はモチベーションやサービスとの兼ね合いもあり難しいですが、時間外労働の数値的な目標に対して対策を立案し活動すると良いと思います。
- ・重点目標に掲げられている取り組みはどの先生も熱心に努力されていると常と感じられます。先生方の就業時間の適正化についても年々少しずつ改善されているようで安心しました。
- ・先生方のコミュニケーションがよく取れているので全ての先生方が同じように子ども達に接して下さることが保護者の安心に繋がっていると思います。
- ・子どもの安全に対する対応力を高める項目では、色々なシチュエーションを想定して訓練等ができると良いと思います。
- ・安全対策は園や地域と連携が取れていると感じます。

学校関係者評価委員会 実施日 令和7年 2月20日

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員